

学校関係者評価報告書

(南宇和高校)

学校番号 (44)

評価実施日		令和8年2月17日(火)	
委員	氏名	所属等	備考
		農業関係者 農家	
		学識経験者 元小学校長	
		地域中学校長 愛南町立御荘中学校長	
		地域代表 愛南町教育委員会学校教育課長	
		保護者代表 P T A 役員	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1 学校経営 来年度から生徒の全国募集を開始するにあたり、全職員がその目的や方向性をしっかりと認識して取組んでいくことが重要である。魅力ある学校づくりを地域と一体になって進めていけるよう更なる体制整備を期待する。 学校の活動について全国への発信とともに、愛南町、県内の中学生にも魅力的なPRをしてもらいたい。学校の広報はまだ工夫できるのではない。広く情報発信していく方法を考えてもらいたい。 将来につながるということが、学校の魅力となる。進学のために愛南町から他校へ行く生徒を、南宇和高校へ呼ぶことを考えなければならない。進学率の向上は好循環を生むため、吐夢センターと連携を密にして、学習の支援を行ってほしい。 2 学習指導 個人差が大きい中、家庭学習を習慣化するのは大変だと思うが、家庭学習時間の少ない生徒に目標を持たせながら働き掛けを継続してほしい。 入学時の学力と比べて、思わぬ生徒が学力を付けて進学しているという話を毎年聞く。少人数だが、手厚く応援してくれていると感じる。 生成AIの活用の際の心構え、関わり方について指導が必要ではないか。 3 生徒指導 各評価項目の評価の高さに、普段から先生方が高い職務意識を持って取り組んでいる成果が表れている。生徒会の役員たちも行動力があり、自分たちのことを主体的に捉え活動につなげていることが素晴らしい。	生徒の全国募集に向けて、全教職員がその意義を理解し、生徒の育成と情報発信を行っていく必要がある。地域協働推進室が中心となり、教職員が一丸となり学校の魅力と方針を、地域をはじめ一般に向けても広く発信していきたい。学校行事等のPRの方法も工夫の余地があるため、地域に協力を仰ぎながら、確実に情報を発信していきたい。 進学率の向上を期待する声は、地域の南宇和高校への期待の大きさを表している。就職、進学ともに、将来につながる学習指導を行っていきたい。 基礎学力定着のための効果的な課題の在り方について研究し実施していく必要がある。少人数である強みを生かした手厚い学習指導を継続し、進学につなげたい。 生成AIの適切な利用については、教員も研修を行うなどして生徒に指導できるようにしていきたい。 生徒が自ら考え行動する力を引き出しながら、令和9年度の創立120周年に向けて、生徒を中心とした学校行事の充実を図りたい。

学校は楽しい場であるとともに安心、安全であることも大切な要素である。友人関係、SNS問題、ヤングケアラー、困窮等、潜在的な課題を抱えている生徒もいるため、外部の専門職等と連携して支援することが大切である。

4 進路指導

面接や個人指導など生徒一人一人を大切にした進路指導が行われていることが窺える。年内の進学実績や公務員試験の結果等で成果が上がっていないのは残念であるが、原因をしっかりと分析して改善策を考えてほしい。総合的な探究の時間や部活動での取組の成果が進学につなげられるよう研究してほしい。

5 心の教育

学校で教育相談の機会が設けられていることが保護者の安心にもつながる。相談の場を設けてもらいたい。

SNSの情報に振り回されない、しっかりとした心の安定を図る教育をお願いしたい。

人権・同和教育において、他校との交流会、中学生との座談会に出席することは有意義である。係の生徒や教員だけではなく、多くの人に呼び掛けて参加をしてもらいたい。

読書に力を入れていることが分かる。引き続き読書の習慣化を目指して取り組んでももらいたい。

6 地域連携

近年の南高生の町内外での活躍は大変すばらしく、愛南町や学校のPRに大きく貢献している。これからも若い力を地域の活性化につなげる取組を期待する。

地域のボランティア活動で、高校生が中学生のボランティアのロールモデルになっている。今後も、地域のボランティアに今後も高校生を参加させてもらいたい。

7 業務改善

校舎自体の古さや、生徒数の減少により掃除が難しい場所もあると思うが、範囲、回数、負担等、効率的に行えるよう検討してほしい。

夜遅くまで職員室の明かりがついている。大変な仕事だと思うが、ワークライフバランスを大切にしてもらいたい。

生徒に寄り添った生徒指導を心掛け、生徒が抱えている問題の早期発見・早期解決ができるよう体制を整えたい。事案や状況に応じた、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、県や町の外部機関との連携は今後も継続したい。

学習支援「叶夢センター」との連携をさらに密にし、授業だけではなく、さまざまな取組を進路につなげられるよう体制の充実を図りたい。就職、進学先でのミスマッチが起きないように一人一人への丁寧な面接指導も継続していきたい。

スクールカウンセラーによる1、2年生全員との面談は今後も継続したい。4月と9月の面接週間でのクラス担任による面接の他、生徒の様子を観察しながら随時、教育相談を行っていききたい。

他校との交流は生徒にとって意義のある活動であり、教員の資質向上にもつながる。今後も積極的に取り組みたい。

図書委員の活動を活性化しながら、図書館の利用促進につながる新たな取組も行っていきたい。

農業科、地域振興研究部、防災地理部、生徒会など、地域と連携した活動を各方面で評価していただいている。ボランティア活動を含め、今後も恵まれた地域資源を生かして地域の魅力を発信し、課題解決につながる活動をしていきたい。

生徒数に合わせて、清掃の分担、実施方法などを工夫するとともに、普段から校内美化に努めることを生徒に指導していきたい。

教職員がワークライフバランスのとれた生活を送れるよう、部活動改革と合わせて、可能な範囲での休暇取得も推進していきたい。